

## 西洋畫の成績(中)

美術審査委員 黒田 清輝

▲最近二三年間に於ける著しい進歩と云へば、明るい畫と云ふものが呑み込めて、ヤ、之を描きこなす事が出来る様に成つた事である、一体明るい畫と云ふことは、必ずしも白い畫を意味しない、明るい畫と云ふことを能く呑み込めなかつた時代には白っぽい色のものに成り勝て、ソレだけでは眞の明るい畫と云ふことが出来ないのだ

▲此眞の明るサを描きこなす腕が出来てきたのが、此二三年以來このかたの事である、是れは一に文部省の展覽會の影響と云つて宜い、併し各方面に材料を求めて、自由に之を描きマクると云ふ一段に成ると、未だ中々容易の事でない

▲又製作の註文と云ふ事も、今日のところでは甚だ尠い、故に公會堂や宮殿等の爲めに特に製作したものを展覽會などで見る事は至つて乏しい今日迄に政府の建造物などの裝飾を引受けて遣つた者が何人ある乎、故淺井忠君が東宮御所の裝飾を承はつた位のものではなからう乎

▲手法の上から云つても、未だ中々行届かない處が多い、佛蘭西のサロン展覽會などで見ると、孰れも此處を先途と盛裝を凝して、盛宴に赴くの感がある、吾國の展覽會で見ても、各人相應に努力して、有らん限りの衣裳を着飾りては居るやうなもの、其盛裝が彼の國のに比べると日蔭町あたりの仕入物位の程度で、誠にみすばらしいのは遺憾だ

▲されば今回の展覽會に於ても、作品の題材などに就いて彼此論評する様な餘裕はないと思ふ、題材などを云々

するのは、先へ行つて諸事緒に就き、少しは餘裕も出來て後の事だ

▲展覽會の出品中で、少しく趣の異つたものを、二つ三つ擧げて見よう乎、孔雀(土岐芳助)厨さき(香田勝太)の如きは、即ちそれである

『東京毎日新聞』明治四三年二月三日